

第1回ふくいの森林・林業のあり方検討会における主な意見

1. 福井県の森林・林業・木材産業の現状および現行計画の成果と今後の展開について

- ・ 「大きな林業」「小さな林業」の取組みは興味深く、非常に面白い。一つの突破口として、この取組みを多く展開してほしい。
- ・ 小さな林業（自伐型林業）は全国的にみても非常にユニークな取組だが、林業は危険な仕事であるため、自営業や副業ではなく、会社組織で取り組むべきだと考える。
- ・ B材大型加工工場の誘致について、過去5年間のB材生産量を踏まえると、その生産量を伸ばしていくには時間的猶予を確保しないと厳しいのではないか。
- ・ 全国的にB材大型加工工場を建設したものの原木が集まらない事例があることから、航空レーザ計測データを活用して、資源量や施業地のデータを積み上げて規模を決めていくべき。
- ・ 主伐・再造林を計画的に進めていくことに異論はないが、保育作業に従事する人が少ない中で具体的にどう進めていくか検討しなければ再造林は難しい。

2. 今後の森林・林業政策について

(1) Fukui Forest Design 推進プロジェクトについて

- ・ 山側の低コスト化も大事だが、売れる材を育てていくことも非常に重要である。川下がどのような材を求めているのかを確認したうえで、再造林の手法を検討してほしい。低コスト化と儲ける林業を天秤にかけた場合、如何に売れるものを育てていくかという議論もすべき。
- ・ Fukui Forest Design 推進プロジェクトは良く出来ており、各項目を精査して県内の連携を高めていくのがいい。「小さな林業」を進めていくには、森林組合、自伐林業を含む地域に根差した中小の素材生産事業体、市場、小規模製材所との連携が必要になると考える。
- ・ 山づくりも含め木材生産を拡大していくには、「大きな林業」と「小さな林業」の両立・連携が一番のカギになる。そのためにも航空レーザ計測データやデジタル技術を活用した森林情報等の基盤整備を進めていくべき。
- ・ 木材はカスケード利用することが重要。製材品として利用し、住宅の解体後は木質ボードとして利用し、最後には燃やすという形を志向することが望まれる。製材としてしっかりと使っていく産業構造を構築していくことが非常に重要である。
- ・ B材大型加工工場誘致は慎重に検討すべき。製材工場の規模拡大もしくは水平連携を支援する施策を検討して、年間2～3万m³を製材する企業が数社できるとかなり状況は変わってくるのではないか。
- ・ 製材工場を支えるため、付加価値の高い製品を生産するなどA材の活用について検討すべき。
- ・ 県産材を利用する必要性について、環境教育を絡めて伝えていくべき。
- ・ 人材を確保する施策に加え、離職防止を図る施策にも取り組んでほしい。
- ・ 林業従事者を確保するためにも、まずは林業従事者の所得を向上すべき。
- ・ 「小さな林業」を進めるに当たって、半林半XのX部門の人が林業をする際に支援する、林業部門の人がXをする際に支援するなど、林業の部分だけでなく、必要なところに必要な支援をすると広がっていくのではないか。

(2) 森林を「守り」「活かす」「慈しむ」プロジェクトについて

- ・ 幼少期の体験は、人格形成に大きな影響を与えることから、幼少期に森林体験できるよう計画に取り入れてほしい。
- ・ 森林整備の必要性を学べるよう、森林整備の最初と最後を見学できるような機会を取り入れてほしい。
- ・ 列状間伐を実施する場合は、土砂災害を誘発しないよう実施場所を検討すべき。
- ・ 福井はナラも多いので、ナラ枯れ等の病虫害対策を検討すべき。